

# マーク・シューマン

(Mark Schumann)

1988年ケルン近郊で生まれ、4歳よりチェロを始める。7歳で、ドイツ連邦のコンクール“Jugend Musiziert”で1等賞を受賞した。2000年オーストリア・リーゼンでの国際ジュニア・チェロ・コンクール、2001年、同コンクールのソロ部門で2002年にはアンサンブルのメンバーとして1等賞を受賞。2006年WDR放送主催のコンクール、そして2008年ケルン音楽アカデミーコンクールにて優勝した。11歳にして、サン＝サーンスのチェロコンチェルトを演奏して、オーケストラとのソリストデビューを果たした。2002年ベルリンのベルビュー城にドイツ連邦共和国の大統領の面前で演奏。ハインリッヒ・シフからチェロのレッスンを受けると共に、フランス・ヘルメルソン、ダヴィド・ゲリンガス、ゲーリー・ホフマン、ベルンハルト・グリーンハウスにもクロンベルク・アカデミー、またコーンウォールでステイーヴン・イッサーリスのマスタークラスにも参加した。2008年夏、スイスでの小澤征爾氏による国際アカデミーに参加、ロバート・マン、パメラ・フランク、今井信子、原田禎夫、そして小澤征爾の各氏の指導により、室内楽の課程を修了した。クロンベルクでの“Chamber Music Connects the World”に参加、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメット、フランス・ヘルメルソンと共に室内楽を演奏した。

マーク・シューマンはコンツェルトハウス・ベルリン、ハンブルク・ライスハレ、ケルン・フィルハーモニー、デュッセルドルフ・トーンハレ、ビーレフェルト、ルドルフ・エトカー・ホール、日本のサントリーホールという名だたる舞台にて演奏している。これまでに、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、フォルクヴァング・室内楽オーケストラ、ブランデンブルク交響楽団、ライプツィヒのMDR放送交響楽団、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、クラジツェ・フィルハーモニー・ボン、読売日本交響楽団と共演するほか、2010年には、有名なルール・ピアノ・フェスティバルにおいてクリストフ・エッセンバッハ及びツイモン・バルトと共演し話題となった。マークの長兄であるエリック・シューマンが結成したシューマン・カルテットのチェリストとしても活動。現在、ケルンでアルバン・ベルク弦楽四重奏団に師事している。

使用楽器は、1710年製「カルロ・ジュゼッペ・テストーレ」。